

## 秩序の罫

東京都知事が行ったフランス語批判が訴訟沙汰を招いている。いわく、フランス語の数のかぞえ方はぐちゃぐちゃでフランス語は国際語としての資格がない、とのこと。フランス語教員らが自らのビジネスに対する侮辱として知事を提訴した、という顛末である。

数のかぞえ方について、その複雑さはある程度客観的に比較できる。たとえば、91を読む場合を考えたい。日本語では きゅうじゅういち と読む。この場合、 $9 \times 10 + 1$  といった計算を暗黙のルールと仮定していることになるだろう。

ドイツ語の場合はどうか。einundneunzig。これは  $1 + 9 \times 10$  と書ける。計算の複雑さは日本語並だが、日本人から見ると計算順序に違和感を覚えるに違いない。

そして問題のフランス語。 quatre-vingt-onze。これは、 $4 \times 20 + 11$  という構造である。計算式の難易度は高く、日本人の目からはきわめて複雑といえるだろう。このような序数の難しさは、フランス語を初めて学ぶ者にとっての苦難として知られている。そして、石原都知事はこれを以下のように批判している。

～ 例えば局番が91というときに、カトル

...で4を押しちゃったら、もうだめなんだよ。ちゃんと聞かないと。4つの20の11と言ったらね、つまり全部聞かないと。こんな言葉はやっぱりあかん。～<sup>1)</sup>

おまけとして、デンマーク語を紹介したい。デンマーク語の91は enoghalvfems。これは、 $1 + (1/2 + 4) \times 20$  という構造になっている。そうだが、デンマーク人がどう感じているのかは知らないが、ちょっと勉強したくなる複雑さである。

国際語の資格云々といった訴訟の論点は脇に置くとして、穿った見方ではあるが、このような複雑怪奇な序数構造の国に育った人は、否応なく高い算数能力を身に付けそうな気がする。この件との因果は定かではないが、フランスといえは多くの有名な数学者を輩出している代表的な国として知られている<sup>2)</sup>。

日本語の序数は国際比較できわめて単純で秩序立った構造と言えるのだが、数理や金融の知識を高めることにおいて、これは必ずしも喜ぶべきことだけではないのかもしれない。（末吉英範）

<sup>1)</sup> 東京都 石原知事定例記者会見録（2005年7月15日）より抜粋。

<sup>2)</sup> 英語版Wikipediaに登録されている数学者で、フランス人の数は2位（201名）、1位は米国人（369名）、2006年7月時点。